

令和元年度

区民参画組織 麻布を語る会 第6回麻布地区政策分科会

議 事 要 旨

開催日時	令和元年 10 月 17 日（木） 18:30～20:30
開催場所	麻布地区総合支所 2階 第3会議室
参加者 (敬称略)	【分科会メンバー：12名】 大竹、鍵谷、加生、片岡、北野、金原、堂園、森田、唯是、吉野、吉松、和藤 【事務局：3名】 鈴木（協働推進課長）、板橋（地区政策担当係長）、遠藤（協働推進係） 【説明者：3名】 田代（管理係長）、中村（協働推進係長）、川口（保健福祉係長）
概 要	1 開会 2 提言作成に向けたスケジュールについて 3 グループ討議（地域事業の改善点について） 4 全体討議（グループ討議の報告及び意見交換） 5 その他
配付資料	資料 1 提言作成に向けたスケジュール（案） 資料 2 地域事業活性化シート 参考資料 直近に開催される地域事業など
副座長	<p style="text-align: center;">【会議経過】</p> <p><b>1 開会</b></p> ただいまから、第6回区民参画組織麻布を語る会麻布地区政策分科会を開催します。令和元年5月から、新たなメンバーで今年度の活動をスタートしたこの分科会も、本日から後半戦です。皆様、どうぞよろしくお願ひします。台風の影響で日程が延期になったこともあり、本日は参加人数が少ないので、全体での検討・議論をしてはどうかという提案を座長からいただいています。
座長	従来どおりグループで議論を進めるか、それとも全体で議論を進めるか、どちらがよいか、皆様のご意見をお願いします
委員A	これまで各グループの議論、発表を聞いていて、自分が検討している分野以外にも意見を言える機会になるのであればよいと思います。
副座長	各地域事業について検討を進める中で、他の分野との連携という話も出てきているので、全体で話を進めるのもいいのではないかと感じています。
委員B	全体で議論を進めることはかまいませんが、分野Ⅲは3つの地域事業のうち、「地方交流事業」と「地域サロン～ちょこっと立ち寄りカフェ～」の2つしか検討を進めていません。「麻布の魅力探訪事業～あざぶ達人ラボ～」の検討が終われば全体での議論に移ってもいいかと思ひます。
委員C	分野Ⅰは、本日、一番分かりにくい防災について議論をしようと思ひています。今回、全体で議論してしまうと、前に進めることができません。分科会自体を通常とは違うという位置づけで開催するのであればいいが、そうでないなら今回グループ討議で予定していたことができません。
副座長	グループ別で議論したいことがあるということなので、通常どおりグルー

プ討議を行い、その後に全体討議を行うことにします。ただし、人数が少ないのでグループ討議の時間は少し短めにして、各グループの発表後に30分程度、全体での議論をします。

この分科会活動は記録のため、写真撮影や録音をさせていただきます。写真撮影に不都合がございましたら事務局の職員までお声がけください。また、全ての発言は挙手、指名を原則とします。分科会の議題からそれた発言など、議事進行の妨げとなる場合には、座長が発言を制止することもあります。円滑な議事運営にご協力をお願いします。

まず、はじめに、事務局から、本日の配布資料の確認をいたします

事務局

配布資料確認の前に、先日の台風19号に関連してご報告です。麻布地区では大きな被害はありませんでした。台風接近に伴い10月11日金曜日の午後5時から自主避難所を2か所設置、協働推進課も避難所運営に加わるため、当分科会を延期とさせていただきます。自主避難所は最終的に、避難所として麻布地区では4つのいきいきプラザに設置し約60名が避難をしました。

(配布資料の確認)

## 2 提言作成に向けたスケジュールについて

副座長  
事務局

提言作成に向けたスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

資料1をご覧ください。前回以降の変更点についてお知らせします。リーダー・サブリーダーとの打合せについては、提言書完成までに3回程度を予定し、直近では、今回の分科会終了後から次回までの間、10月最終週に予定しています。また、提言式の日程が令和2年3月27日金曜日に決定しました。

## 3 グループ討議（地域事業の改善点について）

副座長

事務局からの説明について、ご質問、ご意見等がないようでしたら、グループ討議に移ります。各グループでの議論終了時間は19時35分を目途に、分野Ⅱの皆様は、こちらのスペース1・2へ再度集合できるよう進めてください。その後、各分野ごとに出たご意見等を発表していただいて、最後に全体での議論の時間を30分程度取りたいので、よろしくお願いします。

「分野Ⅰ かがやくまち」「分野Ⅱ にぎわうまち」「分野Ⅲ はぐくむまち」の3グループに分かれ討議

## 4 全体討議（グループ討議の報告及び意見交換）

副座長

それでは、各グループの本日の検討結果を発表していただきます。分野Ⅰから順にお願いします。

C委員

今回は防災に特化して集中的に議論をしましたが、区でもこの事業について試行錯誤している部分があるということで提言を出しにくい状況にあります。防災に関心が高いのは、地区の防災協議会や事業所などの一部であり、麻布地区全体には浸透していないので、防災協議会と事業所の連携を強化することを中心に提言をつくっていくことを考えています。また、震災が起きた際に、関心の高い区民はすぐに行動に移すことができるが、関心のない区民に対して防災の必要性をどう啓発していくかが課題となります。

参加する事業所を増やすには何らかのインセンティブが必要だと考えま

す。一例として、防災ネットワークに加入すると区で取扱う防災用品が安く支給されるなどがあげられます。区民に対しての啓発については、防災マップ（麻布地区）の裏面を活用し、防災ネットワークのPRや、麻布地区に転入してくる人に対しては、防災や港区のルールを伝える転入時講習を行うのはどうかという意見がありました。

D委員

きょうは事業のPR、周知について、どうしたら効果的か話し合いました。基本的には、ちらしを無駄な場所に置かず、対象者を見極めて効果的な場所に配布していくことが望ましいとの結論です。また、掲示板へのポスター掲示は意外と有効なのではないか等の意見が出ました。「ミナヨク」は、対象者を20代～40代としているので、麻布地区の幼稚園、小学校、中学校などに通う児童・生徒にちらしを配布したそうですが、「ミナヨク」の講座が毎回土曜日の午後のため、子どもがいる親にとっては都合がつきにくい時間設定だったようで、効果的な周知ではなかったのではないかとの意見も出ました。また、「ミナヨク」の目的と内容については、これまでの意見を参考に今後の改善策を検討、1年間のプログラムで地域のリーダーを育成するのは困難であること、町会・自治会等のイベントに参加するというプログラムの方が直接的でわかりやすいなどの意見がでました。

E委員

「麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～」について話し合いました。色々な方へ麻布の歴史や文化について伝えていくということを目的に「連携部会」、「まち歩き部会」、「研究部会」の各部会がそれぞれ活動しており、その活動内容について事務局から説明を受けました。今後の展望については、今は歴史や文化にスポットをあてているが、麻布の魅力探訪事業の「魅力」という点で、今の麻布の良いところ、一例としては生活関連の役立つ情報を集め伝えることを追加したらいいのではないか等の意見がでました。また、現在活動している方々が比較的高齢なので、新しく若手の人が加わりこの事業を展開していくことが理想的だと考えました。「麻布の魅力探訪事業」という名称には、麻布地区の地域事業の中で柱にしていくべき事業で、他事業との連携の軸になるのではないかと感じさせるとの意見がありました。事業の内容に合わせ、名称を分かりやすく変えるのもひとつの方法だと思います。また、この事業だけではなく、他の地域事業にも言えることですが、各広報媒体での周知の際に、この事業は麻布地区の地域事業だということが分かるよう何か工夫をすることが望ましいと考えます。

副座長

各グループの発表について、何かご質問はありますか。

A委員

「あざぶ達人ラボ」の「連携部会」ですが、ラボの参加者は「サロンチーム」と言っています。「地域サロン～ちょこっと立ち寄りカフェ～」との連携自体は、平成30年度から始まったもので、サロンチームとしては、麻布地区の学童クラブや放課GO→等と連携をする等、いろいろなアイデアを出して検討をしています。今回、分かりにくい「連携部会」という表現を事務局が使ったのか疑問です。

副座長

ありがとうございました。本日は人数が少ないこともあり、変則的ですが全体での議論にも時間を取りたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

座長

急遽日程が変更になり、本日の出席者が少ないので、せっかくですから全体で意見共有をしたいと思えます。まず初めに、私が長く参加していて感じたこと、今年度ここまで座長を務めて思ったことを述べたいと思えます。

最近思うことは、すべては「ミナヨク」だということです。どういうことかということ、「ミナヨク」は現在イベントに注力していますが、麻布の住民みんなが「ミナヨク」になることが最終的な目標で理想的なゴールだと思います。麻布のスペシャリストは各事業のことを分かっているプロフェッショナルな区民、そのような人をどれだけ麻布地区の中に増やしていけるかということが「ミナヨク」を進めていく目的ではないかと思っており、果たしてこの事業がスペシャリストを養成する事業になっているかどうかということが、検証の視点だと考えています。

事業を目的で分類すると、啓発型の事業と達成型の事業と2つのタイプに分かれます。啓発型の事業にはゴールがなく、身近な例でいえば防災のように啓発を続ける必要があるもの。一方で、達成型は、例えば集客数や売り上げなど数値目標を掲げて実施するものです。達成型でやるべき事業と、啓発型でやるべき事業は分けて考える必要があり、数値目標が達成されていないからこの事業は不要という判断ができない事業もあります。防災のように、結果は出ないが、ずっと啓発を続けなくてはならない事業もあるので、その辺も念頭に置き議論していただけると、よい議論になると思います。

A 委員

まさしくそうだと思います。防災は、自分達の生活に密着したことだという意識を持って欲しいと思っています。いつ何時、災害が起きるかわからないのでみんな知識を持つようにしましょう、わからない人にはわかる人がアドバイスをしましょうというようになって欲しいと思います。また、防災士という資格があり、皆さん受講するチャンスがあるのに学ぶ機会を逃しています。全ての人が防災士の知識を会得して欲しいとも思っています。

F 委員

「ミナヨク」の第1期に参加をして、それ以降、まちに入って活動をするために色々やってきましたが、今までずっと見ていると、これはやっている意味があるのかなと思えてきました。これまでの「ミナヨク」の活動を見ていると、町会・自治会に入りリーダー的な役割で何か運営支援をするとか、町会・自治会をリードする担い手をつくるというところまで全く行き着いておらず、講座の内容と中身がマッチしていません。単純に「町会の手伝いへみんなで行こう!!」と呼びかけた方がわかりやすいと感じています。おそらく、そういう方たちを町会・自治会の方々は欲しがっているし、進めていく中では、そういった若い担い手の人たちにバトンタッチしていく時期がくると思いますので、こういう進め方の方が良いのかなと感じています。

私は「ミナヨク」を通して、まちづくりの中身も、麻布地区の地域事業の内容も知ることができました。また、のちほど事務局から説明はあると思いますが、地域の防災訓練へ参加することは、場を変えて色々な視点から地域を見ることができる、また自分の持っているスキルの確認にもつながることもあるので、非常に良いことだと思います。

副座長

「ミナヨク」については、連続性がないとなかなかやりたいことが達成できないし、1年で地域のリーダーを育成するのは難しいとも感じています。

「ミナヨク」の修了者が集まって、ミナヨクチームとして町会・自治会と関わりを持ち、サポートしていけたら良いと思います。活動が1年限りで終わるのではなく、修了後も「ミナヨク」であることで、みんなが「ミナヨク」になるというのが達成できるのかなと思っています。「ミナヨク」については、目的を明確に、分かりやすくすることでPRもしやすくなると思います。

また、各グループで意見が出ているPR、広報については、横串をさして、

全体での意見交換で、検討を進めていきたいと思いました。

G 委員

分野Ⅲの事業についての意見になります。赤坂地区の特別養護老人ホームサンサン赤坂では、子どもたちと高齢者の触れ合いがあり、とても楽しいとの意見を聞きました。そのような人と人が行き来できる場所が麻布地区にも増えるといいと思います。

H 委員

目的を達成するためのツール、限られた予算のなかでどのようなコンテンツを展開していくかということを考えています。例えば「あざぶ達人ラボ」のように、事業の中で麻布地区についての知見を深める場もよいと思いますが、一方で、多くの人が体験、参加できる企画、成果を見ることができ仕組みができていけば、目的達成に近づくのではないかと思います。そういった観点で「かがやくまち」「にぎわうまち」「はぐくむまち」の3つの分野と各分野の地域事業のバランス、多様性を見直していてもいいのではないかと感じています。

E 委員

今まで住んでいたところでは不便もなく、行政との関わりもなく過ごしていましたが、現在この分科会に参加していることは、自分のためにもいい勉強になっています。いろいろな世代の方が過ごしやすいまちになるように努めていきたいと思います。

B 委員

本日グループで議論した「あざぶ達人ラボ」は、麻布地区の取組として鍵になると思っています。この事業に参加している方々が固定化、高齢化している原因は、切り口が歴史ということへの偏りではないかと思います。この切り口を変えていくことで、参加する人が変わってくるのではないかと。「ミナヨク」ともかかわれる部分があるのではと考えています。

全体にかかわることとしては、どのようにプロモーションすればいいのかということかと思いますが、私が考えているのは、麻布地区内だけでなく、各地区で参画・協働している方々との連携・交流をしていくことで新しい知恵もいろいろ生まれるのではないかとということです。

また、現行の「かがやくまち」「にぎわうまち」「はぐくむまち」という区分けが変わってくると、この閉塞感も変わるのではないかと思います。

D 委員

それぞれの事業内容が目的にあったものになっているのか、シンプルに考えるということが大事だと思います。「ミナヨク」については、3年前の提言書を見ると、今回の議論と同じようなことが提言されている。今回のグループ討議では、目的を明確にし、内容をすっきりさせていく方向性で議論をしていくことになるかと思っています。「ミナヨク」については、まちおこし、まちづくり的リーダーを育成するのか、町会・自治会の担い手を育成するのか、どちらも大事だとは思いますが、どちらなのかなという疑問が残っています。

I 委員

「ミナヨク」の話を中心に議論を進めている中で、リーダーを育成していても地域全体は良くならない、もしリーダーがいても、その人たちが活躍できる場がないなと感じました。みんながコミュニティに参加したくなるような仕組みづくりを考えられるようにしたいと思っていて、その取組が「ミナヨク」であり、「ミナヨク」をより良い取組にしていければと思います。

また、この分科会での検討も早く結果が見えてくるといいなと思っています。最近、リーンスタートアップといった理論により短期間で仮説、検証を行い判断していくという事業が多く見られますが、提言した内容について、自分たちが分科会へ参加している期間に結果が見えてくると、その気になっ

て、また提言してみようという気になれるかと思います。

コミュニティは、この分科会で出会った皆さんが、また次に違うコミュニティへ展開していくことになるかと思いますが、自分でできることも考えていきたいと思っています。

C委員

「あざぶ達人ラボ」のまち歩き部会で活動しています。これまではまち歩きは、参加者を限定して実施していましたが、現在は申込みが殺到している状況にあります。個人的には一生懸命活動しておりますし、人気もある事業ですので、次期麻布地区版計画書の策定で事業が廃止にならないように願っています。

副座長  
座長

ありがとうございました。それでは、最後に座長からお願いします。

毎回、周知・PRに関する課題が出てきますが、テレビの視聴率を例に出すと約20%で大成功となります。ヒット曲は100万枚売れたらミリオンセラーとして大成功となりますが、日本の人口で考えると100人に1人しか買っていない計算です。どんなに売れた商品でも普及率を考えるとその程度なので、麻布地区の地域事業についても2割程度が知っていれば大成功と考えていいのではないかと思っています。それ以上に周知をするということになると、ウルトラC的な、いままでにないやり方が必要になると思いますので、何かアイデアが思い浮かんだ方は12月までにご提案をお願いします。

副座長

それでは、事務局から連絡事項等をお願いします。

## 5 その他

事務局

①次回（第7回分科会）の日時及び内容の確認

- ・日時 11月12日（火）18：30から20：30まで
- ・場所 麻布地区総合支所2階第3会議室
- ・内容：各地域事業の改善提案等

②直近の地域事業等

- ・参考資料のとおり

副座長

ご不明な点、ご質問等はございますか。

直近の地域事業等のご紹介がありましたが、子どもを連れて楽しめそうなイベントがたくさんあるので、もっともっと地元で根付いて生活をしていただけたらいいと思いました。それでは、これを持ちまして、第6回麻布地区政策分科会を終了いたします。皆様、お疲れさまでした。

以上